

**The Third International Seminar on
Japanese Linguistics and Japanese
Language Education**

2011

Indonesia University of Education(UPI)

ターン交替時の発話に着目して話し言葉の機能・効果に迫る
 ー日本語母語話者間の会話における定性的分析ー

首都大学東京 国際センター (Tokyo Metropolitan University International Center)
 磯野英治 (Hideharu,ISONO)

1. はじめに

外国語を学ぶ学習者は、外国語を習得する際にまず基本的な語彙、文法体系、音声的特徴などを学習しそれらをベースとして地域・社会の中でコミュニケーションの実践を試みる。しかし、実際のコミュニケーション、すなわち日常的に話されている会話は、その字義的・基本的な意味のみで運用されている訳ではなく、様々な機能や会話相手への相対的效果を伴う。ひとつの表現形式が複数の機能を有することは、学習者にとって言語運用の際に難しい点であろう。さらに会話が二者間以上の話者から構成されているという点で、話者は言いたいことを言いつつにすれれば良い訳ではなく、会話相手と円滑に会話を展開させていかなければならないという事実は興味深い。

これまでに話し言葉を対象としたこのような研究では、ターンテイキングのタイミングと規則 (Schegloff & Sacks 1973, 西原 1991, 松本 2005, 大浜 2006) やあいづちの役割や形式、機能 (水谷 1984,1988,1993, 堀口 1997) が論じられ、成果をあげてきた。磯野 (2009,2010b,f) では、先行研究を踏まえ日本語の会話におけるターン交替に着目し、特に話者が入れ替わるターン交替時には、会話相手の発話内容をなんらかのかたちで受けて、自分の発話に入っていくというような現象が確認されている。またその中で、「同じ表現のかたち」をとっていても会話相手への相対的效果の観点からその「機能が異なる」発話が観察されることも明らかになってきている¹⁾。

形式的分類：そう系

機能的分類：聞いているという信号

IN	じゃあですねー、お休みの日があったら何をすることが多いですか？。
M04	<u>そうですね</u> 、最近はよく麻雀やってますね<笑い>。

形式的分類：そう系

機能的分類：同意の信号

IN	普段から、よく話とかしたりする？。
M04	<u>そうですね</u> 、やっぱりまた部活の人に<笑い>(はい)、部活の子に (はい)、タイの方がいらっしゃいまして。

磯野 (2010b)

本論では、上記のようなターン交替時において、同じ表現のかたちを持つ発話に着目し、いくつかの事例を挙げてその相対的効果・機能の多様性について考察する。そしてこのような観点から得られた知見を、日本語教育の中の特に会話教育への導入に向けた基礎的研究として位置づけたい。

2. 研究概要

2.1. 会話データ

本論で扱う会話データは「mic-J corpus 日本人へのインタビュー」(西郡・崔・磯野2010)で²⁾、このコーパスは日本語母語場面における日本人インタビュアーは同一の人物、もう一人の被験者については日本人(男女各12名)の計24会話という規模の大きいものである。コーパスの特徴としてそれぞれの各ペアは全て初対面、年齢については20代、現在の言語環境は東京で共通語圏という条件統制を行っている。また会話データを文字化したスクリプトは、会話の相互作用や会話ターンの分析に適した「改訂版：基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)2007年3月31日改訂版」(宇佐美 2007)を採用し、会話開始から終了までの全ての会話が収録されている³⁾。

表1：被験者の属性

グループ	年代	現在の言語環境	会話協力者の属性	会話総数
日本語母語場面	インタビュアー：30代 学生：20代	東京 (共通語)	インタビュアー：1名(女性) × 日本語母語話者：男女各12名	24会話

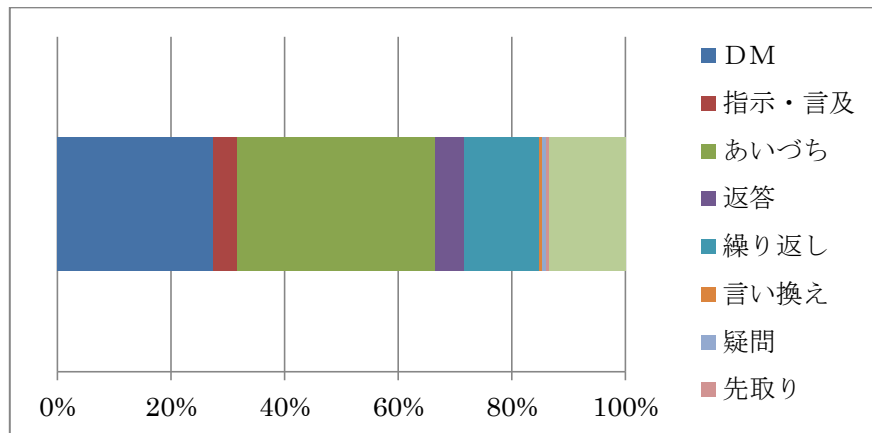
¹⁾ 磯野(2009,2010b,f)及び本論で分析対象となっているのは「IN(インタビュアー)」から被験者である「話者 M04」へターンが受け継がれた直後の発話である。会話データの質や分類方法については「2. 研究概要」を参照のこと。

²⁾ 本研究で扱った会話データは現在、首都大学東京大学院 日本語教育学教室で公開されている。
(<http://japanese.hum.tmu.ac.jp/mic-j/>)

³⁾ 文字化については会話データの音声的特徴やターン交替の認定の観点から、文字化を3次文字化(ピアチェック)まで行った。また本研究で取り扱ったデータは「リハーサル」という設定で、ある程度リラックスした状態で行った録画について事後に被験者から同意を得たものである。フォローアップアンケートでは5段階評価法で「1.会話の自然さ(3.25)」「2.言いたいことを話すことができたか(3.96)」「3.録画を意識しなかったか(3.79)」という数値を得た。本研究では創作されたシナリオのある会話とは違って、あるいは会話参加者の言語行動自体は統制されていないという意味で会話データを「準自然な会話」と位置づける。このような会話の位置づけに関しては土岐(2005)、宇佐美(2007)を参照のこと。

2.2. 扱う表現

これまでのターン交替に着目した一連の研究では、日本語母語話者は形式的にはあいづち⁴⁾やディスコースマーカ（DM）で会話相手からの発話を受け、会話を展開させることが多いことが明らかになっている。



磯野 (2010b)

このため、本論ではあいづちの中から「そうですね」「あ」、そしてディスコースマーカから「あの (一)」という表現を例に挙げ、同じかたちを持った表現にどのような多様性があるのかを考察する。分析に先立って、本論で扱う上記三つの表現が前提としてどのように位置づけられているのかを、形式的分類から概観する。

(1) 「そうですね」「あ」.

A. あいづち: 「はい、ん、ええ、あ、うん、はあ、ほんと、なるほど、うっそー、そうですねえ、そうですか」など、積極的な働きかけを持たないもの。

a. そう系: 「そう系」: 「そう」という音韻が含まれる語→「そうですね」

b. はい系: 「はい系」: 「ハ、ン、エ、ア」の音節を含む3音節以内の語→「あ」

(2) 「あの (一)」

B. ディスコースマーカ: 英語での oh, well, and, but, or, so, because, now, then, I mean, you know, に相当する談話の連結やコンテキストの調整に重要な働きをもっていると考えられる要素で、「指示・言及」「あいづち」「返答」以外のもの。

a. フィラー: 「あの (一)」「えーと」「えっと (一)」「あー」「えー」「んー」「うーん」等のいわゆる言いよどみの言葉や間を持たせるもの→「あの (一)」

⁴⁾ あいづちの認定や定義に関しては、研究の観点によって一致していない現状があるが文末や終助詞、間投助詞で打たれることが多いという指摘は少なくない。本論では、ザトラウスキー (1993) における「先行する発話の終わる箇所から始まるあいづち的な発話」をあいづちと捉え、会話相手が発話権を行使している間に打たれる短く単発的なあいづちと区別する。またあいづちの相対的効果や機能を会話相手との相互作用から考察するため、本論で扱う会話データでは、先行する発話の終わり付近に打たれたあいづちは、あいづちを打った当該話者のターンとなる。

3. 分析と考察

3.1. あいづち「そうですね」の機能

(1) 形式的分類⁵⁾: A.あいづち a.そう系

機能的分類: A.応答 a-1.聞いているという信号 a-2.同意の信号

20	*	IN	へー、じゃあ、その色々アルバイトをやってて(はい)、一番大変だったこととか、困ったことはありますか？
21	*	F05	一番大変だったのは(うん)、うん、たまに理不尽な暴力を受けます。
22	*	IN	えー、<それは>{<}?。[→]
23	*	F05	“<あー>{>}、リアット”っていう、<プロレス…>{<}【。
24	*	IN	】<プロレス>{>}みたいな<感じ>{<}。
25	*	F05	<そんな>{>}感じですよ。
26	*	IN	えー。[驚くように]
27	*	F05	あと、着ぐるみのときは(はい)、なんて言うんですかね、いろいろ化粧とか(うんうんうん)諦めない(うんうんうん)、“あ、もうマスカラが落ちた”っていう感じですね。
28	*	IN	そうですね、汗かきます<よねー>{<}。
29	*	F05	<そう>{>}ですね。
30	*	IN	へー、じゃあ逆に一番嬉しかったこととか、やって良かったって思うことは何ですか？
31	*	F05	<u>そうですね</u> 、また、次のライブに呼んでもらえたり(うん)、で、着ぐるみだと、なんか、お客様が(うん)、喜んで頂いてるのを(うんうん)、なんか、こっから見てるって<いう楽しみ>{>}ですね{<}。
32	*	IN	<ええ、うーん>{>}、そっか、人を楽しませたりとか、そういう、楽しい瞬間に立ち合える。
33	*	F05	<u>そう<です></u> ね{<}。
34	*	IN	<仕事>{>}ですよー、わかりました。

発話文 28 の IN の「汗かきますよねー」という働きかけに対して、F05 は同意と共感を示している。そして発話文 30 の IN の質問に対しては、すぐに自分の回答を発話し始める訳ではなく、一度「そうですね」と IN の発話を受けてから会話を展開させている。これは、松田 (1988) が分類している会話相手が話している時に「話についていっている (追随している) ことを伝える」というようなあいづちではなく、「聞いていることを伝える」という機能を有していると考えてよいだろう。また発話文 32 の IN の「~ということですね」というような言い切ったかたちの意見に対しては、同意の意味で「そうですね」が機能していると考えられることができる。

⁵⁾ 形式的分類、及び機能的分類についてはコーディングの信頼性を確保するため、2名の評定者が24会話全データの25%(男性3会話、女性3会話)について個別に認定を行う Cohen's Kappa (Bakeman&Gottman 1986) を採用し形式的分類 (k=0.910)、機能的分類 (k=0.823) とともに k>0.75 の数値となった。本論では会話データに存在する個所について、該当の分類のみを提示しているため、分類の全体については磯野 (2009,2010b,f) を参照のこと。

(2) 形式的分類：A.あいづち a.そう系

機能的分類：A.応答 a-3.理解しているという信号

115	*	IN	じゃあ、もう最後の質問なんです(はい)、一生のうちに一度はやってみたいと思っていること、があったら教えて下さい。[文末はほとんど聞こえない]
116	*	F04	それは、あー、なんかハワイのホノルルマラソンに(はい)、1回出てみたいなくて思います、はい>{<}。
117	*	IN	<へー>{>}、あれはかなり長距離になりますけど。
118	*	F04	そうですね (うーん)、なんか、あたしの友達が(はい)、行ったことがあるって(ふーん)、なんかその友達の話聞いてたら、すごい楽しそう(うーん)、1回、一生のうちに1回は<行ってみたいとか>{<}。
119	*	IN	<へー>{>}、あー、もう体力はぱっちりですからね<笑い>、普段から練習してるから大丈夫ですね。

IN と F04 はホノルルマラソンについての知識を共有しているという前提のもとに会話が展開し、さらに IN の働きかけに対し F04 は既にホノルルマラソンに参加したことのある友人から話を聞いたことがあるため、「既に様々なことを理解している」という機能が「そうですね」に表れていると考えられる。堀口 (1997) では発話文 117 の IN の「あれは～」という指示詞から会話者間の知識の共有範囲を導こうとする観点もあるが、上記の例にもその様子が観察できる。

3.2. あいづち「あ」の機能

(1) 形式的分類：A.あいづち b.はい系

機能的分類：A.応答 a-1.聞いているという信号

54	*	IN	どこから通ってるんですか？。
55-1	/	F08	あ 、今えっと、自宅、あの実家から通ってて、えーと>{<}, ,
56	*	IN	<あ、そう>{>}なんですか。
55-2	*	F08	その、23 区の両国、で<すねー、はい>{<}。

F08 は IN の会話に対して、その会話内容や文脈とは関係ない応答から会話を始めているため、IN の会話に反応しているという意味で、働きかけを伴っていない。

(2-1) 形式的分類：A.あいづち b.はい系

機能的分類：A.応答 a-2.同意の信号

11	*	IN	じゃあですね、まあ質問は簡単なことばかりなんですが(はい)、えーと今何かアルバイトをしていますか？。
12	*	M10	あ 、してます、イタリア料理店で(はい)、ウェ이터のバイトを<しています>{<}。

M10 は IN の質問に対して、肯定的に回答する際に「はい」の代用として「あ」で応答している。

(2-2) 形式的分類：A.あいづち b.はい系

機能的分類：A.応答 a-2.同意の信号

38-2	*	M08	だから着ぐるみ着たその日はもうなんか(はい)、特になんか(うん)、頭洗うんが(うーん)、なんかこう、普段よりもなんか(うん)、何て言うんすかねあの一、普段より徹底して頭く洗うような感じで<笑い>><。>
40	*	IN	<ふふふふ><、汗かきますくしねー><。>
41	*	M08	<あ><、かきます。
42	*	IN	あーそれは確かに大変ですねー。

M08はINの発話に対して、やはり同意を伴う際に「はい」ではなく「あ」で応答し、会話を展開させている。(2-1)や(2-2)の事例から分かるように、肯定的に同意や共感を伴う「はい」のかたちは、「あ」に置き換えることが可能であると考えられる。

(3) 形式的分類：A.あいづち b.はい系

機能的分類：A.応答 a-3.理解しているという信号

74	*	IN	じゃあ旅行に行ったりすることはありますか？。
75	*	M10	んー、あんまりないですが(うーん)、昨年末にギリシャに(おー)、行ってきまして、3週間位なんですけど(へー)、それはとてもいい、いい旅行でした。
76	*	IN	そうですかー。
77-1	/	IN	ギリシャもまあ、食べ物、イタリアなんかと隣り合っくてちよっと><、
78	*	M10	<あ、似てますね><。>
77-2	*	IN	いいんですくね><。>

M10はギリシャについて分かっているので、INのギリシャの特徴についての発話に、やや先取るようなかたちで会話を開始し、発話文78と77-2に発話の重なりが見られる。「あ」はこのような時にも、「既にわかっている」という機能で発話することができる。

(4-1) 形式的分類：A.あいづち b.はい系

機能的分類：A.応答 a-4.否定の信号

60	*	IN	えー、それでも近くに一人暮らしとかしたりは、あれ??、あ、一人暮らしですか、今は。
61	*	F06	あ、実家で。

F06はINの問いかけに対して、「違う」という意味の反応を示しているが「いいえ」や「いや」を使用せずその代わりとして「あ」という表現形式で否定の応答を示している。さらに、「一人暮らしではない」ことを伝えるために、語彙レベルで「実家」と言い換えている点は、以下に出てくる例との比較から興味深い。日本語の会話では特にYesやNoで答えるような会話相手の問いに対して、「いいえ」や「いや」は直接的な印象を与えると考えられ、その代用としてこのようなストラテジーが取られるのではないかと。

(4-2) 形式的分類：A.あいづち b.はい系

機能的分類：A.応答 a-4.否定の信号

29	*	IN	うーん、それは何て言うんでしょう、その、仕事の、お得意様というか、 なんでしょう、あい、仕事の相手が外国の方くだったりするわけですか?<[<]
30	*	F10	<あ、そういう>[>]ことではなくて。
31	*	IN	はい。
32	*	F10	結構、その日本語の文を英語に直したりとか(あー)、そういうの結構あるの。

F10はINの質問に関して否定的に応答するにあたり「いいえ」や「いや」の代用として「あ」を使用していると考えられる。また、「あ」に後続する発話は「そういうことではない」というように、まず間接的に違うことを示している。

(4-3) 形式的分類：A.あいづち b.はい系

機能的分類：A.応答 a-4.否定の信号

149	*	IN	じゃあですねー、次の質問は、えー映画は見ますか?。
150	*	M08	あ、見ないっす。

この例も基本的には、M08がINの質問に対して「いいえ」や「いえ」を使用せずに「あ」で代用している例であるが、「見ますか」という問いには直接「見ない」と答えている。またINの問いに対して「見ない」事実のみを伝えるよりも、「あ」という言葉が入ることによって否定が和らぐと考えられる。

(4-4) 形式的分類：A.あいづち b.はい系

機能的分類：A.応答 a-4.否定の信号

158	*	IN	へー、それは結構何十年も前に作られた映画とか?=[→]
159-1	/	M08	=あ、作ったのはつい最近くなんですけど>[<], ,
160	*	IN	<あーそうなん>[>]ですかー。
159-2	*	M08	はい、ネタがもう(へー)戦前の話で。

この会話も基本的な機能は上記三つの会話と同じであると考えられる。またINの問いに対してM08は文レベルで正しい情報への修正を行っている。

(5-1) 形式的分類：A.あいづち b.はい系

機能的分類：A.応答 a-5.感情の表出

90	*	IN	じゃあですね、映画は見ますか？。
91	*	F03	映画は見ますね。
92	*	IN	はい、最近は何か見ましたか？。
93	*	F03	最近は、〈笑い〉この前ナ、ナ、ナルニア国物語(はい)を見に行きました。
94	*	IN	うーん、どうでしたか？。
95	*	F03	あ、なんか期待はずれでした=。
96	*	IN	=あら、そうですか。

M03 は、IN に感想を聞かれ、とても残念そうな「あ」という表現を使用することによって、IN にその気持ちを伝えようとしていると考えられる。

(5-2) 形式的分類：A.あいづち b.はい系

機能的分類：A.応答 a-5.感情の表出

64	*	F04	イギリスに(はい)、あの、父の出張の(ええ)、関係についていったことがあって(へー)、なんか、その一父の仕事についても(はい)、現地で学ぶことができたし(うん)、また英語もすごい話す機会がたくさんあったので(うーん)、すごい、今、なんか、自分が英語やりたいっていうきっかけにもなった旅行でした、〈はい〉{<}。
65	*	IN	〈へー〉{>}、それ何歳ぐらいの〈頃から?〉{<}。[最後のほうはほとんど聞こえない]
66	*	F04	〈それは〉{>}中学 2 年生のときです、〈はい〉{<}。
67-1	/	IN	〈へー〉{>}、じゃあ、お父さんも、さぞかし喜んでいる〈というかー〉{<}、
68	*	F04	〈あ、そうですかね〉{>}。
67-2	*	IN	何か自分(は一)、お父様もじゃあ、そういう国際関係の〈お仕事を?〉{<}。
69	*	F04	〈父は〉{>}、あ、いや全然違うんですよ(ふーん)、街作りとか、そういう建築の方で、〈はい〉{<}。

F04 は IN のほめに対して、「照れ」或いは「謙虚さ」といった音声を伴って「あ」という応答から会話を展開させていることが観察できる。

(6) 形式的分類：A.あいづち b.はい系

機能的分類：B.直接的な発話

60	*	M11	映像とサウンド以外にも(はい)、コミックのレンタルをやってまして(へー)そこの担当なんですけどー。
61	*	IN	ええ。
62	*	M11	" あ 、こんな漫画面白いですよー"とか。
63	*	IN	ふーん。
64	*	M11	あとはもう、今現在映像化してるもの。

M11は自分自身の考えていたことをINに再現するかたちで示しており、そのためにM11のターン交替時の「あ」は極めてモノログのようなかたちになっている。このM11の発話はINに向いている、或いは相対的な効果を担うものではないと考えることができるだろう。また形式的分類における下位分類「b-1.はい系」では、このような機能を有する発話はほとんど観察されなかった。

3.3. ディスコースマーカ「あの(ー)」の機能

(1) 形式的分類：B.ディスコースマーカ a.フィラー

機能的分類：A.応答 a-1.聞いているという信号

9	*	IN	じゃあですね(はい)、質問は簡単なんですけども(はい)、まず1つめは、 んと、今何かアルバイトしてますか？。
10	*	F04	あ、はいしてます。
11	*	IN	はい、何して<ますか>{<?>。
12	*	F04	< あのー >{>}、公文の(ほー)、採点のバイトを<しています、はい>{<}。

F04はINの質問に直接答えているというよりも、質問内容や文脈とは関係なくINにまず応答している。

(2) 形式的分類：B.ディスコースマーカ a.フィラー

機能的分類：A.応答 a-3.理解しているという信号

33	*	IN	あれ、今何年生です？。
34	*	M07	今、4年生です。
35	*	IN	あ、あー、じゃあ、もうあと1年というか、最後に論文を書いて終わりというか、ですかね？。
36	*	M07	単位がちょっとー(<笑い>)、<足りないんですけど、僕は<笑い>>{<}。
37-1	/	IN	<そうなんですかー>{>}、<じゃあ>{<}、
38	*	M07	< あのー >{>}、はい。
37-2	*	IN	もう1年行っちゃおうかなとかそんな感じの？。
39	*	M07	そうですね、ちょっと、色々あって(はい)、今年で頑張っ て単位を回収して、来年卒業(へー)したい、<感じです>{<}。

M07は発話文37のINの発話の続きを予測しているので、INの会話途中で「あの一」と発話し、細かいことは述べずに「はい」のみで端的に会話を終わらせている。

- (3) 形式的分類：B.ディスコースマーカー a.フィラー
機能的分類：A.応答 a-5.感情の表出

133	*	IN	お、好きな映画、おすすめの映画は、何ですか?。[興味がありそうに]
134	*	F01	ふふふふ、そうですねー、おすすめ…。
135	*	IN	うん。[ささやくように]
136	*	F01	/少し間/『鷹の爪』ですかね、<最近では>{}。[少し照れるように笑いながら]
137	*	IN	<何ですか>{}それは?。
138	*	F01	<u>あの一</u> 、とてもくだらないアニメなんですけど、<何か、はい>{}。
139	*	IN	<アニメ??、へー>{}。
140	*	F01	フラッシュアニメ(ふーん)なんですけど、/沈黙3秒/はい(ふふ)、とりあえずくだらないく二人で笑いながら>(へー)、それしか言いようがないような。

INは発話文136でF01が照れながら話した『鷹の爪』を全く知らず、それについて質問したところ、F01は「有名ではない」「マニアック」というようなニュアンスを伴った少し照れるような「あの一」という言葉を発し、会話を展開させている。

- (4) 形式的分類：B.ディスコースマーカー a.フィラー
機能的分類：C.確認 c-3.理解確認要求

200	*	IN	じゃあですねー(はい)、えー最後に一生のうちに一度はやってみたいって思っていることがもしあったら、<教えて下さい>{}。
201-1	/	M08	<うーん>{}、/少し間/それ何でもいいんですか、あの、
202	*	IN	もうなんくでも>{}。
201-2	*	M08	< <u>あの</u> >{}、叶わないようなことでも?。
203	*	IN	=うん。

一連の会話の流れにおいて、M08はINの質問は聞き取れているが、INの漠然とした質問に対して、その意味の理解に自信が持てず、自分の理解が正しいかどうかについて「あの」という発話から会話を展開している。

(5) 形式的分類：B.ディスコースマーカ― a.ファイラー

機能的分類：C.確認 c-4.説明要求

73	*	IN	じゃあですね(はい)、これからどこか(うん)、今後(はい)旅行に行くとしたら、どこか行きたいとこってありますか？。
74	*	F04	あ、シンガポールに行ってみたくですねーなんか><。
75	*	IN	<へー><、どうして?。[→]
76-1	/	F04	あの、たー、多言語社会…、<で、そう><、
77	*	IN	<はい、はーい><。[理解を示すように]
76-2	*	F04	シンガポールはすごい、マレー語とか(うん)中国語とか(うんうん)、私は何か今そういう多文化国際協力コースっていうコースにいて(ほー)、そういう、たー、多言語のユニットにいるんで(うん)、実際そういう、その言葉によって(うん)、どういう文化とか生じるとか、そういう、社会について学びたいなと思ってるんで。

F04 は IN の端的で唐突な質問に対して、答えとしてその発話（答え）を行う理由や事情に関して戸惑いを感じ言いよどみ、その効果をもって IN にさらに詳しい説明（発話）を求めていると考えられる。

上記で取り上げた例から概観できるように、ひとつの表現のかたちが様々な機能を有していることがわかった。これまでの研究では、形式的分類による分類が同じであっても機能的分類との対応関係においては多様性が見られる（例えば形式的分類におけるあいづちとして「そうですね」や「はい」が同様に分類されても、様々な機能を有する）ことが明らかになっているが（磯野 2011d,e）、本論では「ひとつの表現のかたち」についても同様のことを例証した。本論で特徴的な点として、あいづちの「そうですね」「あ」は、(1) 会話の進行を促すような肯定的意味や同意、共感を示すだけでなく、文脈によっては理解や感情を表わしていること (2) さらに会話の流れの中で否定的な発話をする際にもその役割を担っていること (3) モノログのように聞こえるものもあること、そしてディスコースマーカ―の「あの (ー)」は、会話相手との意味交渉にも活用されていること、が挙げられる。

4. 終わりに

本論では、語用論の観点からひとつの表現のかたちが持つ様々な機能について、ターン交替時の発話に着目して考察を行った。本論で取り上げたような特徴は、実際の会話データを詳しく分析することで明らかにすることができ、またこのような実際のやりとりは、日本語を学ぶ学習者のための教材にも「現実をより反映する」といった意味合いで、発展的に取り入れられていくべきであろう。本論は今後の日本語教育への貢献を視野に、いくつかの事例について論じたが、今後の課題として同じ観点から定性的分析が可能なデータの抽出と拡大をしていきたい

と考えている。

参考文献：

- 磯野英治 (2009) 「日本語母語話者のターン交替における定量的分析とその語用論的特徴について－会話教育への示唆－」『2009 年度韓国日本学会傘下学会連合学術大会 Proceedings』、韓国 日本学会、122-126.
- (2010b) 「日本語母語話者の会話におけるターン交替の特徴について－インタビュー会話における定量的分析から－」『日本研究』 Vol.28、中央大学校日本研究所、137-158.
- (2010f) 「日本語母語話者のターン交替における語用論的特徴について－機能的分類による定量的分析と会話教育への示唆－」『日本学報』第 84 集、韓国日本学会、227-240.
- (2011d) 「日本語の会話におけるあいづち・ディスコースマーカ－の語用論的特徴と会話教育への示唆」『중앙대학교 국제학술심포지 엄한·중·일 3 국의 이문화커뮤니케이션에 관한 보편성과 특수성 (Chung-Ang University International Symposium : The Universal and Distinctive Traits in Cross-Cultural Communicative Patterns of Three East Asian Countries; Korea, China and Japan)』、韓国 中央大学校、23-32.
- (2011e) 「日本語母語話者の会話における表現形式とその語用論的特徴について－ターン交替時の発話に着目した定量的分析－」『2011 年度韓国日本学会傘下学会連合学術大会 Proceedings』、韓国 日本学会、81-86.
- 宇佐美まゆみ (2007) 『魅力ある大学院教育イニシアティブ「多言語社会に貢献する言語教育学研究者養成プログラム」報告集3 自然会話教材開発研究』、東京外国語大学大学院地域文化研究科言語教育学プログラム推進室.
- (2007) 「改訂版：基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) 2007年3月31日改訂版」『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』平成15-18年度 科学研究費補助金 基盤研究B(2) (研究代表者 宇佐美まゆみ) 研究成果報告書、17-36.
- 大浜るい子 (2006) 『日本語会話におけるターン交替とあいづちに関する研究』、溪水社
- ザトラウスキー・ポリ－ (1993) 『日本語の談話の構造分析－勧誘のストラテジーの考察－』、くろしお出版.
- 土岐哲 (2005) 「インタビュー・聞き書きと質問紙調査法」『日本語学』6月臨時増刊号vol.23、32-43.
- 西郡仁朗・崔文姫・磯野英治 (2010c) 「mic-Jコーパスの公開について－「外国人へのインタビュー篇」「日本人へのインタビュー篇」－」『人文学報』377号、首都大学東京都市教養学部人文・社会系、31-39.
- 西原鈴子 (1991) 「会話の turn-taking における日常的推論」『日本語学』、vol.10、10-18.

- 堀口純子 (1997) 『日本語教育と会話分析』、くろしお出版。
- 松田陽子 (1988) 「対話の日本語教育学—あいづちに関連して—」『日本語学』、vol.7、59-66.
- 松本剛次 (2005) 「日本語学習者のターンの受け継ぎに関する談話レベルでの横断調査—フランス語母語話者でのケーススタディー—」『言語社会心理学的アプローチによる自然会話分析方法論ハンドブック』、東京外国語大学大学院地域文化研究科 21 世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」、CD-ROM 版、135-150.
- 水谷信子(1984) 「日本語教育と話し言葉の実態—あいづちの分析—」『金田一春彦博士古希記念論文集』 第二巻 言語学編 三省堂.
- (1988) 「あいづち論」『日本語学』 Vol.7 No.13 、4-11.
- (1993) 「「共話」から「対話」へ」『日本語学』 Vol.12 No.4、4-10.
- Bakeman,R.&Gottman,J.M (1986) Observing interaction : an introduction to sequential analysis. *Cambridge university Press*.
- Schegloff,E.A.& Sacks,H.(1973).Opening up closings. *Semiotica*, 7, 289-327.